# 田村地域における大規模繁殖農場の子牛飼養管理技術向上

県中農林事務所田村農業普及所

## 1　背景・課題

（背景）

・田村地域は、畜産業（特に和牛繁殖経営）が盛んな地域である。

・高齢化等により縮小傾向にある産地の対応策として、ＣＳ・ＣＢＳ機能を備えた大規模繁殖農場「ＪＡ和牛ファーム福島さくら」（以下「ファーム」）が平成31年３月に開業。

ＣＳ　Cattle Station　・　ＣＢＳ　Cattle Breeding Station
繁殖農家が、自身の子牛の育成管理や親牛の繁殖管理を預託できる機能

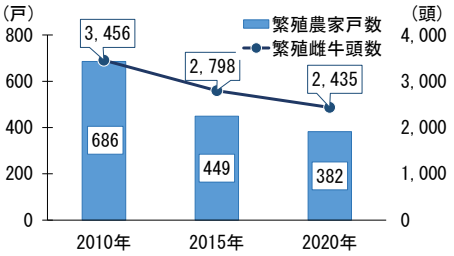



図１　繁殖農家戸数と繁殖雌牛頭数の推移

（課題）

・ファームでは令和２年度から子牛の出荷が始まったが、従業員の技術不足等が原因で、子牛の出荷時体重は県平均の約95%と平均に届かなかった（図１）。

・預託機能の利用者が伸び悩んでおり、出荷時体重の向上と機能のＰＲによる利用者確保が必要。

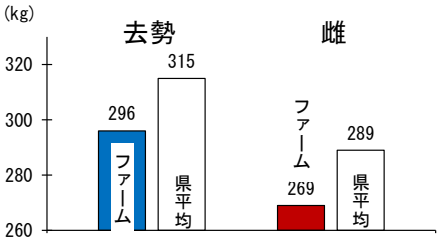



図２　子牛出荷時の体重比較（Ｒ２）

## 2　ねらい

子牛の飼養管理を改善し、出荷時体重の向上を目指す

## 3　活動内容

### (1)子牛発育状況の可視化

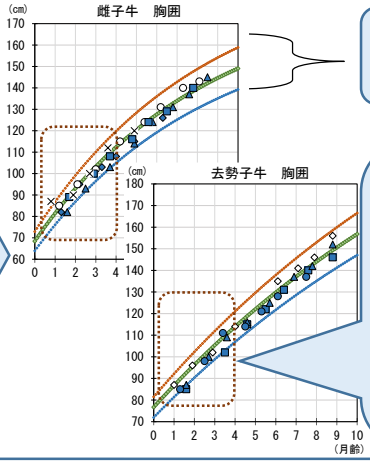
〇牛体測定

・雌雄２頭を目安に、月齢ごとに子牛を選定し、出生から出荷まで月１回の牛体測定を実施。

・『日本飼養標準』の標準発育値と比較してファーム子牛の発育状況を把握し、課題点を可視化

哺乳期（出生～３，４ヶ月頃まで）の発育が標準の「平均」を下回る個体が多かった
⇒哺乳期子牛の飼養管理改善に集中

標準発育と比較




『日本飼養標準』が示す標準発育曲線（上限、平均、下限）

哺乳期の管理でつまづくとその後平均を上回る発育を確保することは難しい…
↓
**哺乳期子牛の飼養管理改善に集中！**

## (2) 個体管理の徹底

| 哺乳期の課題 | 対策指導 |
|---|---|
| 栄養不足による発育不足の懸念 | マニュアルを提示し、月齢に合わせた養分要求量を満たす飼料給与量を指導 |
| 日頃の飼料摂取量が把握できない | 食べきる量の給与を基本とし実際に食べた量を管理するよう指導 |
| 効率の悪い飼料給与方法 | 乾草と配合飼料の給与に時間差を設ける分離給与の徹底を指導 |
| 健康管理の不徹底 | 便の性状や行動の様子、飼料摂取量から体調を把握し異常の早期発見を指導 |

# 4　成果

### ○出荷時体重

・指導を開始した令和３年度からの３年間で出荷時体重は向上。
・去勢、雌子牛ともに県平均と同等程度の出荷時体重を得られるようになった。

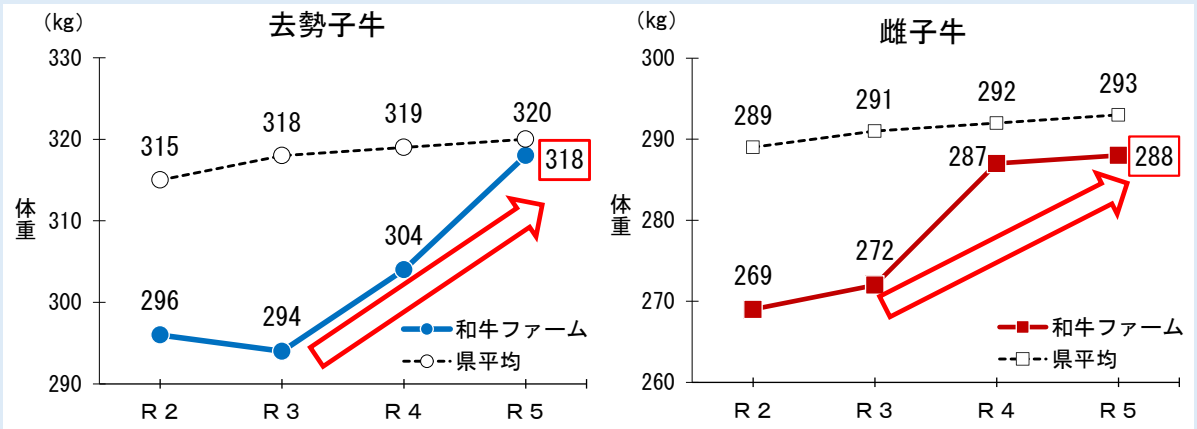



図３　ファーム産子牛の出荷時体重の推移

### ○従業員の資質向上

・月齢に合わせて給与量を増やし、必要な養分量を充足できる給与体系を構築
・発育や体調に合わせて、子牛ごとの飼料給与量を調整
・ホワイトボードを活用し、従業員間で子牛ごとの体調や飼養管理状況等を情報共有
（哺乳量、飼料給与量、疾病状況、治療状況　等）

# 5　今後の活動・方向

達成！

子牛の出荷時体重向上 → 成果と併せてCS･CBS利用のメリットをＰＲ → CS･CBSを活用した経営体の創出

**預託機能を活用し、田村地域の生産基盤を維持**